

指定管理者制度導入施設 モニタリングシート

評価年度

令和元年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立新磯ふれあいセンター及び相模原市立相模の大風センター（れんげの里あらいそ）
指定管理者名	公益財団法人 相模原市まち・みどり公社
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで
施設設置条例	相模原市立ふれあいセンター条例及び相模原市立相模の大風センター条例
施設の設置目的	市民の健康の保持及び増進並びに高齢者の福祉の向上に寄与する （相模原市立ふれあいセンター条例第2条） 相模の大風文化の保存、継承を図るとともに、これらに関する理解を深める場を市民に提供することにより、郷土を愛する心をはぐくみ、もって豊かな市民文化の向上に寄与する （相模原市立相模の大風センター条例第2条） 相模原市立新磯ふれあいセンター及び相模原市立相模の大風センターは、直営の新磯こどもセンターを併設している。三施設を合わせた複合施設の愛称を「れんげの里あらいそ」とし、各施設が連携を図ることにより世代を超えた交流の場となることを複合施設設置の目的としている。
施設概要	所在地：相模原市南区新戸2268番地1 構造：鉄骨造一部鉄筋コンクリート2階建 面積：れんげの里あらいそ 延床：3,068.40㎡ 敷地：5908㎡ 新磯ふれあいセンター 1,610.95㎡ 相模の大風センター 937.82㎡
施設所管課	健康福祉局地域包括ケア推進部高齢・障害者福祉課、南区役所地域振興課

2 管理実績

項目（単位）	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
利用人数	新磯ふれあいセンター	85,301	79,631	62,175			
	相模の大風センター	10,262	12,181	10,261			
	全体合計（人）	95,563	91,812	72,436			
利用料金	新磯ふれあいセンター	4,778,590	4,519,760	3,740,285			
	相模の大風センター	366,860	307,825	298,000			
	全体合計（円）	5,145,450	4,827,585	4,038,285			

3 成果指標の達成度

指標 1	
指標名(単位)	施設利用率(夜間を除く)
指標式と指標の説明	専用利用に係る承認件数 / 専用利用申込み可能件数

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値(単位)	-	-	63%	64%	65%	66%	67%
実績値(単位)	61.0%	57.2%	53.7%				
達成度(%)	-	-	85.2%				

平成30年度までは夜間利用を含めた設定だったため、除いて再計算した実績値を掲載。

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
C	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標の達成度は85.2%であり、評価基準により「C」評価とする。 令和元年度から夜間利用を指標対象外としたが、多目的ホール、工作室において利用率が減少している。集客力の高い魅力的な教室等を新規開催することで、新規利用者の獲得及び利用の定着に向けて創意工夫頂きたい。

4 事業の実施状況

市が指定する事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
高齢者ふれあいの湯	11.1月	濃縮温泉水を使用し、温泉気分を味わっていただき、健康増進を図る。(11月参加者:260人、1月参加者:229人)	
凧の展示	通年	大凧センターに寄贈された凧等の展示を行う。小学校等の授業で見学に来ることも多く、施設の目玉となっている。(参加者:7,178人)	
大凧まつり写真展	7~8月、2月	相模の大凧まつり写真コンクールに応募いただいた写真を、館内及び当社が管理運営する市内公共施設の巡回写真展で展示する。(参加者:600人)	
凧づくり教室	6~3月	凧の絵付けや、竹骨の組み立て、糸目付を通して日本の伝統文化「凧」の魅力を伝える。児童の参加が多く、文化の継承に役立っている。(参加者:28人/200人)	

自主事業			
主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
リンパの流れとヨガ教室	4~6月	ヨガ体操を通してリンパの流れを良くすることを目的として開催。(参加数/定員 38/40人)	
ソフトエアロビクス&リンパストレッチ教室	10~11月	音楽に合わせて体を動かし、ストレッチ等を行う。(参加数/定員 35/40人)	
初心者向け体幹を鍛えるバランスボール教室	9月	バランスボールを使った軽いエクササイズを行い、定期的に運動の習慣をつける。(参加数/定員 26/20人)	
帆掛け舟の展示会	6~7月	帆かけ舟を展示し、地域の歴史・文化の振興を図る。(参加数 1,047人)	
ミニ門松作り教室	12月	正月飾りの門松を卓上型にしたミニ門松を作成する。(参加数/定員 16/20人)	

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
S	<p>全体的に、施設の設置目的に合致した事業を数多く実施しており、特に複数の事業で定員以上の申込みを得られていることは、施設の活性化や利用者増に寄与しており高く評価できる。また、これまでの実績を参考に、ヨガ教室等の人気かつ収益性が良い事業を積極的に試行してほしい。</p>

5 利用者の満足度

利用者満足度調査	
調査手法/サンプル数	調査手法:利用者満足度調査(アンケート) / 時期:令和元年7月8日~22日 / 回答数数:ふれあいセンター203人、大風センター130人
目標値の基準	90%(利用満足度の設問に対する「満足」と「概ね満足」の合計の割合)

新磯ふれあいセンター

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値(%)	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%
実績値(%)	98.4%	95.5%	95.7%				
達成度(%)	109.3%	106.1%	106.3%				

相模の大風センター

項目(単位)	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
目標値(%)	90%	90%	90%	90%	90%	90%	90%
実績値(%)	92.1%	90.6%	93.8%				
達成度(%)	102.3%	100.7%	104.2%				

その他の取組		
取組事項	時期	取組内容
ご意見箱	通年	ご意見箱を設置し、いつでも気軽にご意見を受け付けられるようにしている。
事業参加者アンケート	通年	自主事業開催時に参加者を対象にアンケートを実施。受け付けたご意見を参考に、新規事業等に反映していく。
施設利用団体連絡会	毎月1日	毎月1日に実施している専用利用の抽選会の際に、団体に対する連絡事項及び団体からのご意見等のヒアリングを行っている。

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
A	<ul style="list-style-type: none"> 利用者満足度調査における「満足」「どちらかといえば満足」の合計値について、年間事業計画書で設定した目標値に対する達成度が、新磯ふれあいセンターは106.3%、相模の大風センターは104.2%のため、A評価とする。 事業開催時のアンケート等で、既存事業の改善点及び新規事業開催の参考意見を収集し、より魅力的な事業を開催していくことで利用者数の増大に繋げていただきたい。

6 施設の経営状況

施設の収支概要		直近3年間について記載		
		(千円)		
項目		平成29年度	平成30年度	令和元年度
収入 (a)		67,626	67,335	67,845
	指定管理料	62,481	62,507	63,794
	利用料金収入	5,145	4,828	4,038
	その他の収入	0	0	13
支出 (b)		66,255	66,883	67,346
	人件費	26,929	27,342	26,521
	本社管理経費	3,581	3,943	6,126
	その他の支出	35,745	35,598	34,699
本体事業収支 【(a)-(b)】(c)		1,371	452	499
自主事業収入 (d)		425	464	851
自主事業支出 (e)		955	868	1,019
自主事業収支 【(d)-(e)】(f)		-530	-404	-168
全体収支 【(c)+(f)】		841	48	331
備考	利用料収入が前年に比べ16.4%減少しているのは、新型コロナウイルス感染症の影響により、施設利用の自粛や3月は休所をしていたことが主な原因である。			

団体の財務状況	団体本体の経営状況について特段の問題はない。
---------	------------------------

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
S	本体事業収支、全体収支ともに黒字であり、団体本体の経営状況について特段の問題はないため、「S」評価とする。

7 管理業務の履行状況

検査方法	指定管理者へのヒアリング等により検査を実施
実施時期	令和2年9月

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	
危機管理	適正に実施	
人員配置・地元活用	適正に実施	
現金管理	適正に実施	
会計・経理	適正に実施	
情報セキュリティ	適正に実施	
情報公開・個人情報保護	適正に実施	
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	
加点事由	具体的内容	

8 指定管理者の自己評価

施設の利用率については、目標値に対して未達成という結果になった。大きな要因としては、工作室の利用区分変更に伴い団体利用枠の拡充をしたが、予約数が伸び悩んだ点が挙げられる。今後は、あじさい大学の卒業生など施設案内を含めたPRに努めていく。また、利用者満足度調査については、新磯ふれあいセンター及び相模の大風センターともに目標を達成しているが、引き続き、利用者のご意見に耳を傾けた施設運営に努めていく。

9 所管課意見

- ・利用人数、利用収入が減少していることについて、アンケートや過去の実績、他類似施設における成功例等から、集客率の高い事業を展開し、新規利用者の確保及び定着に積極的に努めていただきたい。
- ・利用者満足度は引き続き高く、既存の利用者の意見や要望に真摯に対応していると認められ、高く評価できる。新規利用者の確保に努めつつも、これまでどおり利用者に愛される施設運営を続けてほしい。
- ・施設PRについては、JR東日本や地域情報紙との連携等、積極的に認知度向上に努めていると認められる。特に、大風は小学生の社会科見学や一般客の来場等、文化の継承とともに多世代交流の契機となるよう、より一層創意工夫に努めてほしい。

10 選考委員会意見

- ・利用者の健康に対する興味・関心が利用者満足度調査の結果から見られ、既に高齢者支援センターとの共催事業等展開しているものもあるが、「健康増進」は施設の設置目的にも関わる重要な観点であることから、今後もより一層そうした事業を実施してほしい。
- ・大風センターの運営について、大学生を中心とした若い世代は発信力が高く、直接的に夙ボランティアの確保に繋がらずとも間接的なPR効果が見込めるため、区役所等と連携し、広く夙に関する事業を積極的に展開してほしい。

総合評価（自動判定）

A

(75/100)

